

「すこやかまつり (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今年度の私の授業は6年生の理科が中心なので、1年生の創造活動にはあまり関わるチャンスがない。お手伝い程度しかできず、大変申し訳ないと思っている。今回の「すこやかまつり」でも、準備段階ではほとんど関わることはできなかった。

実は「スーパーボールすくい」の班が、手作りのスーパーボールを作るということで、私が材料を探していた。一番いいのは、化石の型取り用のシリコンゴムで、2つのペースト状のものを練和すると、わずか5分ほどで、天井まではずむほどの弾力のあるシリコンゴムになる。しかしこの材料は本来歯科技工用(歯列の型取り用)なので、少し高い。適度に**硬化**して**効果**抜群なのだが**高価**なので、使用はあきらめた。

担任がいろいろと調べて、スライムの材料(洗濯のりとホウ砂)に食塩を練和すると、弾力のあるスーパーボール(のようなもの)ができるらしいということがわかった。私は半信半疑だったが、確かにその方法なら今あるものだけで、安価にできそうだ。子どもたちは教室前の廊下に道具を出して、連日「スーパーボール」を作っていた。一見、どう見てもスライム作りなのだが、コップの中のゲル(スライム状のもの)は徐々にゾル化して、ついに丸い塊になった。



写真が、子どもたちが作った「スーパーボールすくい」の「お店」である。ペットボトルの蓋で作った「おたま」ですくうという趣向で、思ったより難しかった。



いびつな形状のものが多く、中には平べったいものや、表面に塩の結晶が噴き出しているものもあった。しかし、試したら思ったよりもよく弾んだ。



すくったスーパーボールは、お持ち帰りできるという。ちゃんとお客さん用の「持ち帰り袋」まで用意されているところが、実にすばらしい。



「金魚すくい屋さん」は2軒あった。こちらは、輪ゴムのついた「金魚」をクリップ付の釣り竿で釣る方式。しかし、輪ゴムのついていない金魚もあるので、どうやって釣るのか聞いたら「えらにひっかけて釣って!」という答え。なかなか斬新な発想である。